

事業者

放課後等デイサービス評価表（公表）

事業所名：パステールUKI

公表日：令和8年4月1日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		<ul style="list-style-type: none"> • 子供の人数、状態に応じて外活動に行ったりして調整している • 子供の実態に応じて、外活動をいれている • 発散の必要性がある場合は、外活動を取り入れる（子供選択）
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		<ul style="list-style-type: none"> • トイレ介助が異性介助になってしまう • 保護者に許可を取る。 • 必要以上にトイレに同席しない
	3 生活空間はこどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	6	<ul style="list-style-type: none"> • 階段は安全に配慮して職員が対応している • バリアフリーではないけど、安全面には気を付けて対応できていると思う • バリアフリー化は難しい • 階段への配慮はしている • 階段があるため必要に応じてサポートを行っている • 歩行器や車いす使用の子供達には階段は厳しい • 合理的配慮を行っている
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	1	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> • 安心して過ごせる部屋がある事で、ゆっくりと関われる時間があっていいと思う
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> • PCAGIP法を取り入れ、職員が意見、思いを伝える機会を作っている
	9 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		
適切な支援の提供	10 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		
	11 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> • 出来る様に努力している
	12 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		

	13	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		
	14	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		
	15	放課後等デイサービス計画には放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		
	16	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	
	17	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・週ごとにテーマを決めて活動内容を検討している ・担当を変えながら、多面的に見る様になっている
	18	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		
	19	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し話し合い、共通理解ができると、もっと良くなると思う
	20	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		
	21	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		
	22	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		
関係機関や保護者との連携	23	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		
	24	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		
	25	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・学校さんより保護者さんとの連携が多い
	26	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・児発からご利用いただいているので、とても良い共有をさせて頂いている
	27	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・迎えに来られた時に、職員と保護者さんで話す時間がすごくいい時間だと思う

保護者への説明等	28	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		
	29	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		
	30	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		
	31	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> 保護者さんの悩んでいる事にすぐに対応出来ているので、お母さんたちの心が元気になるれていると思う
	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		
	33	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> 送迎時やLINEで活動内容や行事予定をお伝えしている 研修時の報告を掲示板で行っている
	34	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		
非常時等の対応	35	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		
	36	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	1	
	37	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10		
	38	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの際に共有し、必要に応じて対策をしている 毎日行う事が出来ている
	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		
40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10			

○事業所名	バステールIUKI（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	令和8年1月13日 ～ 令和8年2月13日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数)	38
○従業者評価実施期間	令和8年1月13日 ～ 令和8年2月13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月6日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○感覚統合、運動発達、原始反射の視点を取り入れ、一人ひとりの特性に合わせた、『心と身体の土台づくり』をおこなっている。 ○子どもたちが自身が「やりたいこと」を見つけられるよう、	・職員が子どもたちと遊びを共有することで、安心・安全な環境づくりを大切にしている。 ・子どもたちが自身が「やりたいこと」を見つけられるよう、遊びの中で選択できる機会を設け、主体性を尊重した支援を行っている。	・各専門分野からの直接的な学びを常に深め、支援の中で生かしていく。 ・職員間での毎日の振り返りを行い、様々な課題を上げ、職員間で共有していく。 ・足育と視機能について、さらなる情報発信をしながら、保
2	○保護者支援 ・保護者との関係性を大切にし、保護者様の悩みに寄り添いながら、関係機関連携や移行支援につながるよう積極的に行っている。 ・専門的視点での保護者様へお子様の発達段階や、困り感の	・療育内容の報告は丁寧に行っている。 ・保護者様との日頃の関係性を常に大切に、何かあった時に気軽に相談できる雰囲気づくりを行っている。 ・職員間で連携しながら、保護者の変化をすぐにキャッチし	・モニタリング時以外にも保護者様と電話や、面談など気軽に相談ができる関係性を構築していく。 ・研修や茶話会等の要望も多いので、保護者間だけでなく、職員間との交流もできるように企画していく。 ・様々な情報を伝えたり、保護者向けの研修を行い、お子さ
3	○職員間の連携 ・『身体の土台づくり』への目標が、職員共通として明確にあるので、そこへ向けてのアプローチに対して職員それぞれのアセスメント力、視点、対応力がしっかりできている。	・職員間での気付き等、情報共有や連携を図る時間を確保している。 ・職員同士で尊重し学び合える場を意識的に行っている。	・支援内容以外での、職員の中にある様々な新しい情報を取り入れながら職員間で共有し、支援の幅を広げていく。 ・子ども達だけでなく、職員自身のより良い日常となる為の環境づくりを行っている。

事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること		事業所として考えている課題の要因等		改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○環境面 ・構造上の問題での階段 ・施設周辺の交通量の多さ ・男性職員不在 		<ul style="list-style-type: none"> ・歩行が困難な子どもに対しての階段の負担 ・男性職員不在の為、学童期男児に対しての排泄面の介助 	<ul style="list-style-type: none"> ・階段の介助が必要な子供に対しては、駐車場の配慮や、階段のサポート等を継続して行っていく。 ・必ず介助者ともう一人職員がサポートし安全面に徹底していく。 ・異性の場合、声掛けのタイミングを見ながらや、職員を変えたりしながら対応していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○情報の発信 ・事業所として取り組んでる内容の全体発信 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用児への個別への発信はできているが、全体への周知、外部への情報発信ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのモニタリングや面談時に周知し、理解していただけるよう伝えていく。 ・保護者全体に情報が発信できるような取り組みが必要である。

|

|